

健康診断結果の見方



① 身長・体重測定

基準値：BMI = 18.5 以上 25.0 未満

身長と体重を測って肥満度を出し、「肥満・やせ」をみます。

$$BMI = \frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長 (m)}^2}$$

BMI (ボディ・マス・インデックス) の値が 22 前後の人が最も死亡率が低下することが統計的に明らかになっていることから、この値を適正体重として肥満度を判定するものです。

☆BMI の判定・・・太っているほど数値が高くなります。



BMI	判定
< 18.5	低体重
18.5 ≤ ~ < 25	普通体重
25 ≤ ~ < 30	肥満 1 度
30 ≤ ~ < 35	肥満 2 度
35 ≤ ~ < 40	肥満 3 度
45 ≤ ~	肥満 4 度

② 視力検査 (1・4 年生のみ)

基準値：0.7 以上

疑われる症状や病気：近視、乱視

5m 離れた距離のものをどれだけ正確に見ることができるかを測定します。普通自動車運転免許は両眼で 0.7 以上、片眼で 0.3 以上の視力が必要です。視力が 0.7 より低い場合、放っておくと目が疲れやすくなったり、頭痛や肩こりの原因にもなるので注意しましょう。

③ 血圧検査

基準値：最大血圧 140 / 最小血圧 90 mmHg 未満

疑われる症状や病気：

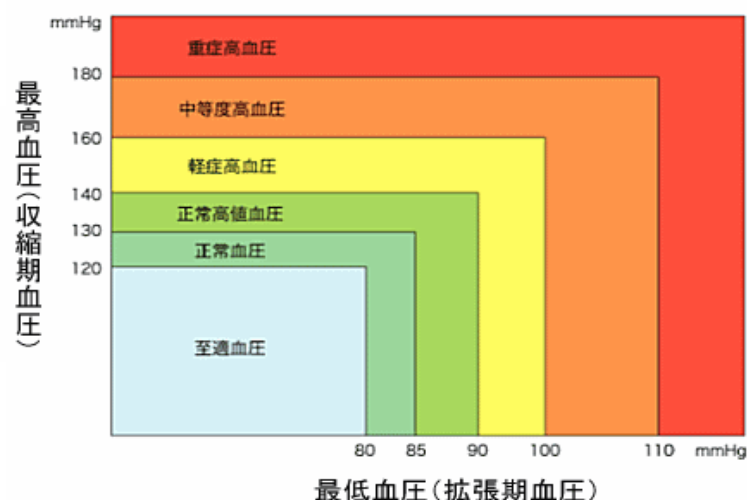
高値の場合 ⇒ 高血圧症、肥満、高脂血症、動脈硬化など

低値の場合 ⇒ 低血圧症、心不全など。

ほとんどの場合病気ではありません。

心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割をしています。この血液を送り出す時に血管の中に加わる圧力を血圧といい、心臓が収縮して血液を押し出すときを「収縮期血圧 (最大血圧)」、心臓が拡張して血液が入り込んだときを「拡張期血圧 (最小血圧)」といいます。

☆成人における血圧の分類☆



④ 聴力検査 (4 年生のみ)

疑われる症状や病気：中耳炎、難聴など

聴力検査には 2 種類あります。大学の健康診断では、診察の際に会話のやりとりの中で自然に聴力検査を行う「会話法」で検査をします。会話法の場合、日常会話に支障がなければ「所見なし」と判断されます。

⑤ 尿検査

基準値：陰性 (-)、弱陽性 (±)

- 尿糖・・・尿中に糖が出ているかどうかを調べる検査です。血糖値が 160mg/dl を超えたところから尿糖が出ようになります。異常が見られたら、糖尿病のほか、肝臓や甲状腺などの病気が隠れている場合があります。再検査を受けても異常がある場合は、精密検査を受けて詳しく調べる必要があります。しかし、健康な人でも激しい運動をした後やストレスを感じた後などに尿糖が出ることもあります。
- 尿たんぱく・・・尿中にたんぱく質が含まれているかどうかを調べます。この検査は、主に腎臓の病気発見の手掛かりとなります。健康な人でもストレスを感じていたり、たんぱく質の多い食事をした後などは尿にたんぱくが現れることがあります。
- 尿潜血・・・尿中に血液が混入しているかどうかを調べる検査です。肉眼ではわかりにくい微量の血液も発見することができます。陽性の場合、腎臓の病気や膀胱炎などが疑われます。しかし、健康な人でも、激しい運動の後や、長時間寒さにさらされた後に陽性になることがあります。また、女性は月経中に尿の中に血液が混入することがあります。

⑥ 胸部レントゲン検査

胸部に X 線を照射して撮影を行い、肺や心臓の異常を調べます。異常陰影があった場合は、その広がり具合や部位、濃度、境界などを調べます。

- 側弯・・・脊柱 (背骨) が横に曲がってしまう病気です。
- 心拡大・・・心臓の内径・内腔の大きさが大きいこと。心臓の幅が、胸の大きさの半分以上ある状態を言います。
- 心肥大・・・心臓の筋肉の壁が肥厚し、分厚くなっている状態を言います。

⑦ 内科検診 (1・4 年生のみ)

聴診器で心音や呼吸音を聞きます。医師が直接目で見て診察する視診、触れて異常なものを見つける触診、聴診器を当てて異常音が聞こえないかを調べる聴診などがあります。